

專 門 基 礎 分 野

授業科目	解剖学 I	講師名	灰塚 嘉典	所属	医学部
開講時期	1 年次 前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p>【学習の目的と主題】 人体の正常な形態とその形成過程および機能的意義について、系統的に理解する。</p> <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学の概念 2. 系統別人体の構成 <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨格系 2) 筋系 3) 神経系 4) 感覚器系 5) 循環器系 <p>【使用テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院) ・ カラーアトラス「人体」解剖と機能 (中外医学者) <p>【評価方法】 学科試験：終講試験</p>					

授業科目	解剖学Ⅱ	講師名	川上 速人	所属	医学部
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間

【学習の目的と主題】

人体の正常な形態とその形成過程および機能的意義について、系統的に理解する。

【学習内容】

1. 人体とその構成——細胞学と組織学
2. 系統別人体の構成
 - 1) 消化器系
 - 2) 呼吸器系
 - 3) 内分泌系
 - 4) 泌尿器系
 - 5) 生殖器系
 - 6) 発生学

【使用テキスト】

- ・系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)
- ・カラーアトラス「人体」解剖と機能 (中外医学者)

【評価方法】

学科試験：終講試験

授業科目	生理学 I	講師名	中島 剛 八木淳一 渋谷 賢 須賀 圭	所属	医学部
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間

【学習の目的と主題】

生理学の講義では、ヒトを含めた生物のしくみ、すなわち生体の機能について学びます。解剖学で学ぶ生命の構造が“どのように働くのか”という「機能」について考えていきましょう。生理学の知識は、臨床医学を理解するための重要な基礎となります。

【学習内容】

1. 生理学の概念
2. 体液と電解質
3. 神経系, 骨格筋, 感覚器
4. 循環と呼吸

【使用テキスト】

- ・ 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)

【評価方法】

学科試験：終講試験

授業科目	生理学Ⅱ	講師名	三嶋竜弥 小藤剛史 中山高宏	所属	医学部
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間

【学習の目的と主題】

生理学の講義では、ヒトを含めた生物のしくみ、すなわち生体の機能について学びます。解剖学で学ぶ生命の構造が“どのように働くのか”という「機能」について考えていきましょう。生理学の知識は、臨床医学を理解するための重要な基礎となります。

【学習内容】

1. 消化と吸収および栄養と代謝
2. 血液・組織液およびリンパ
3. 体温とその調節
4. 腎臓および尿路
5. 内分泌

【使用テキスト】

- ・系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)

【評価方法】

学科試験：終講試験

授業科目	生化学	講師名	田原 義和		所属	医学部
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間	

【学習の目的】生化学の目的は（１）体内にどんな物質があるか（２）体内でどんな化学反応がおこっているか、という２つの視点から生命活動を理解することです。「化学」を難しく言うと「物質の性質や変化を原子と分子の働きで理解する」ことで、これを「化学する」と表現すれば、生命活動を化学するのが生化学といえます。生体物質の変化の流れを生み出す一連の化学反応が代謝であり、代謝による物質とエネルギーの生産、その調節を理解することがこの講義の第一の目的です。そして健康な身体を維持する働き＝恒常性（ホメオスタシス）を代謝の視点から理解することが第二の目的です。

講義の進め方 1週間前に次回の基本事項をまとめたプリントを配布するので次回講義までに予習しておいて下さい。講義中はそのプリントに沿って基本事項を学び、より詳しい内容をスライドを使って補足します。国試の過去問などの問題も考えます。ときにはNHK 番組などのビデオを見て、小難しい生化学にできるだけなじんで今後の学習につなげることを目指します。

【学習内容】 [] 内の数字はその日学習する教科書の章

第1部 生化学の基礎

1. 栄養素 1-三大栄養素：乳脂肪分はどうやって牛乳に「溶けて」いるのか？ [2・3・4]
2. 栄養素 2-微量栄養素と水：エネルギーにならない水がなぜ身体に必要なのか？ [6]
3. 血液：血は身体中をめぐって何をしているのか？ [7]
4. 消化と吸収そして代謝：食物はどのようにして身体に吸収されるのか？ [9]

第2部 体内の化学反応

5. 酵素：酵素は体内で何をしているのか？ [10]
6. 糖質の代謝 1：摂っても太らない「希少糖」の秘密 [12]
7. 糖質の代謝 2：低炭水化物ダイエットの落とし穴 [12]
8. 脂質の代謝：チョコは油のかたまり？！ [13]
9. 蛋白質の代謝：肉を食べれば筋肉がつくのか [14]
10. 栄養素 3：疲れが取れるビタミン剤 [11]
11. 核酸の代謝：遺伝子は何でできているのか [5・15]

第3部 代謝の制御と異常

12. 遺伝子と先天性代謝異常：なぜある種の疾病は遺伝するのか [18・19]
13. ホルモン：細胞をあやつるホルモンとは何者？ [8]
14. 代謝の異常：原因は加齢？過食？運動不足？ [16・7]
15. 終講試験

【テキスト】三輪一智・中恵一著 系統看護学講座 人体の構造と機能② 生化学（医学書院）

【参考書】

- ①中元伊知郎著 自分で作る 生化学ワークノート（メディカ出版）
- ②馬渡一浩著 看護の基礎固めひとり勝ち 3. 生化学編（メディカルレビュー社）
- ③安谷屋均著 看護学生のための 解いておぼえる 生化学ドリル（照林社）

いずれも要点と問題で基本的な理解を確認できるワークブック。テキストや講義で学んだ知識の確認や定着に。気に入ったのを一冊ポロポロになるまで読み込めば実力がつくはずです。

【評価】終講試験（客観式問題と記述式問題）

授業科目	病理学	講師名	望月眞 藤原正親 下山田博明 千葉知宏 磯村杏耶 大森嘉彦 大窪泰弘			所属	医学部
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間		
<p>【学習の目的】 臓器、組織、細胞の変化としての病変について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解する。</p> <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学とは・先天異常 2. 代謝障害 3. 循環障害 4. 炎症と免疫、膠原病 5. 感染症 6. 腫瘍 7. 老化と死 <p>【使用テキスト】 系統看護学講座専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進(1)病理学 (医学書院)</p> <p>【評価方法】 学科試験：筆記テスト</p>							

授業科目	治療論	講師名	杏林大学医学部医師			
開講時期	1年次 後期	単位数	1単位	時間数	15時間	
【学習の目的】						
代表的な治療法を学び、生体への影響について理解する。						
【学習内容】						
1. 放射線療法 (4時間)						
1) 放射線療法とは						
2) 放射線療法の種類と特徴						
3) 放射線療法の進め方						
4) 放射線障害と放射線防御						
2. 化学療法 (4時間)						
1) 化学療法とは						
2) 化学療法の実際						
3) 化学療法の作用						
3. 麻酔・ペインクリニック (2時間)						
1) 麻酔の知識						
2) 緩和療法						
4. 手術療法 (4時間)						
1) 手術療法の目的と意義						
2) 手術室の管理						
3) 術前・術後の管理と術後合併症の管理						
4) 外科的侵襲と生態の反応						
【使用テキスト】						
新体系 看護学全書 別巻13 治療法概説 メジカルフレンド						
【評価方法】						
学科試験：学習内容 1. 2. 3. 4.について同時に試験を行い1科目評価とする。						

授業科目	疾病論 I	講師名	杏林大学医学部医師			
開講時期	1 年次 後期	単位数	1 単位	時間数	3 0 時間	
【学習の目的】						
<p>系統別疾患について、臓器系特有の症状をとらえ病態生理、治療、検査について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解する。</p>						
【学習内容】						
1. 循環器系の診断と治療（14 時間）						
<ul style="list-style-type: none"> 1) 虚血性心疾患（心筋梗塞・狭心症） 2) うっ血性心不全 3) 弁膜症 4) 心筋炎・心筋症 5) 不整脈 6) 血圧異常 7) 解離性大動脈瘤 8) 心臓・血管手術と術後患者の管理（弁疾患・冠状動脈バイパス手術） 						
2. 血液、リンパ系疾患の診断と治療（6 時間）						
<ul style="list-style-type: none"> 1) 赤血球系の疾患（鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血等） 2) 血小板異常による疾患（血小板減少性紫斑病） 3) リンパ網内系疾患（悪性リンパ腫） 4) 白血病 5) HIV 感染とエイズ 						
3. 呼吸器系疾患の診断と治療（10 時間）						
<ul style="list-style-type: none"> 1) 肺炎 2) 肺癌（外科的治療を含む） 3) 肺結核 4) 気管支炎・気管支拡張症 5) 気管支喘息・呼吸不全 						
【使用テキスト】						
<ul style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（3）循環器（医学書院） 2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（4）血液・造血器（医学書院） 3. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（2）呼吸器（医学書院） 						
【評価方法】						
<p>学科試験：学習内容 1. 2. 3 について同時に試験を行い 1 科目評価とする。</p>						

授業科目	疾病論Ⅱ	講師名	杏林大学医学部医師												
開講時期	1年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間										
【学習の目的】															
系統別疾患について、臓器系特有の症状をとらえ病態生理、治療、検査について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解する。															
【学習内容】															
1. 消化器系疾患の病態と検査・治療の特徴（内科）（8時間）															
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1) 胃・十二指腸潰</td> <td style="width: 50%;">2) 潰瘍性大腸炎</td> </tr> <tr> <td>3) クローン病</td> <td>4) 肝炎</td> </tr> <tr> <td>5) 肝硬変</td> <td>6) 肝臓癌</td> </tr> <tr> <td>7) 胆石・胆嚢炎</td> <td>8) 膵炎</td> </tr> </table>							1) 胃・十二指腸潰	2) 潰瘍性大腸炎	3) クローン病	4) 肝炎	5) 肝硬変	6) 肝臓癌	7) 胆石・胆嚢炎	8) 膵炎	
1) 胃・十二指腸潰	2) 潰瘍性大腸炎														
3) クローン病	4) 肝炎														
5) 肝硬変	6) 肝臓癌														
7) 胆石・胆嚢炎	8) 膵炎														
2. 消化器系疾患の病態と検査・治療の特徴（外科）（10時間）															
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr><td>1) 食道癌</td></tr> <tr><td>2) 胃癌</td></tr> <tr><td>3) 膵臓癌</td></tr> <tr><td>4) 胆嚢胆管癌</td></tr> <tr><td>5) 肝臓癌</td></tr> <tr><td>6) 大腸癌</td></tr> <tr><td>7) 直腸癌</td></tr> <tr><td>8) 腸閉塞</td></tr> <tr><td>9) 腹膜炎</td></tr> </table>							1) 食道癌	2) 胃癌	3) 膵臓癌	4) 胆嚢胆管癌	5) 肝臓癌	6) 大腸癌	7) 直腸癌	8) 腸閉塞	9) 腹膜炎
1) 食道癌															
2) 胃癌															
3) 膵臓癌															
4) 胆嚢胆管癌															
5) 肝臓癌															
6) 大腸癌															
7) 直腸癌															
8) 腸閉塞															
9) 腹膜炎															
3. 腎、自己免疫疾患の病態と検査・治療の特徴（12時間）															
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr><td>1) 主要症候と病態生理</td></tr> <tr><td>2) 1次性腎疾患</td></tr> <tr><td>3) 2次性腎疾患</td></tr> <tr><td>4) 腎不全と腎補助療法</td></tr> <tr><td>5) 膠原病（1） 総論 関節リウマチ</td></tr> <tr><td>6) 膠原病（2） SLE、血管炎症候群など</td></tr> </table>							1) 主要症候と病態生理	2) 1次性腎疾患	3) 2次性腎疾患	4) 腎不全と腎補助療法	5) 膠原病（1） 総論 関節リウマチ	6) 膠原病（2） SLE、血管炎症候群など			
1) 主要症候と病態生理															
2) 1次性腎疾患															
3) 2次性腎疾患															
4) 腎不全と腎補助療法															
5) 膠原病（1） 総論 関節リウマチ															
6) 膠原病（2） SLE、血管炎症候群など															
【使用テキスト】															
1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（5）消化器（医学書院）															
2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（5）消化器（医学書院）															
3. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（8）腎・泌尿器（医学書院）															
4. 1) 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（11）アレルギー・膠原病・感染症（医学書院）															
【評価方法】															
学科試験：学習内容 1. 2. 3について同時に試験を行い1科目評価とする。															

授業科目	疾病論Ⅲ	講師名	杏林大学医学部医師			
開校時期	1年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間	
【学習の目的】						
<p>系統別疾患について、臓器系特有の症状をとらえ病態生理、治療、検査について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解する。</p>						
【学習内容】						
<p>1. 内分泌系疾患の診断と治療（8時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 甲状腺・副甲状腺疾患（機能亢進症、低下症、腫瘍） 2) 副腎疾患（アジソン病・クッシング症候群・褐色細胞腫） 3) 下垂体疾患（尿崩症・成長ホルモン） 4) 代謝疾患（糖尿病・通風） 						
<p>2. 女性生殖器系疾患の診断と治療（6時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子宮腫瘍 2) 卵巣脳腫 3) 炎症 						
<p>3. 泌尿器系疾患の診断と治療（6時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 尿路結石 2) 尿路感染症 3) 前立腺肥大症 4) 膀胱癌 5) 睾丸腫瘍 						
<p>4. 皮膚系疾患の診断と治療（10時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 湿疹皮膚炎症候群 2) 蕁麻疹・痒疹 3) 薬疹・中毒疹 4) 紫斑症 5) ウイルス感染症 6) 性感染症 7) 熱症 						
【使用テキスト】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（6）内分泌・代謝（医学書院） 2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（9）女性生殖器（医学書院） 3. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（8）腎・泌尿器（医学書院） 4. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（12）皮膚（医学書院） 						
【評価方法】						
<p>学科試験：学習内容 1. 2. 3. 4について同時に試験を行い1科目評価とする。</p>						

授業科目	疾病論Ⅳ	講師名	杏林大学医学部医師			
開講時期	1年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間	
<p>【学習の目的】 系統別疾患について、臓器系特有の症状をとらえ病態生理、治療、検査について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解する。</p> <p>【学習内容】</p> <p>1. 脳・神経疾患系の診断と内科的治療（10時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳疾患 2) 脊髄疾患 3) 末梢神経疾患 4) 神経・筋疾患 5) 感染症 6) 中毒性疾患 <p>2. 脳神経系疾患の診断と外科的治療（8時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 頭部外傷 2) 脳腫瘍（手術） 3) 脳疾患 <p>3. 運動器系疾患の診断と治療（12時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 先天性疾患 2) 骨折・脱臼 3) 骨・関節の炎症性疾患 4) 骨腫瘍 5) 脊髄系疾患 6) 麻痺性疾患 <p>【使用テキスト】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学(7) 脳・神経（医学書院） 2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学(7) 脳・神経（医学書院） 3. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学(10) 運動器（医学書院） <p>【評価方法】 学科試験：学習内容 1. 2. 3について同時に試験を行い1科目評価とする。</p>						

授業科目	疾病論Ⅴ	講師名	杏林大学医学部医師他			
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間	
<p>【学習の目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師として必要な眼科的知識を身につける。外来での処置や患者への注意点にも触れる。 2. 耳鼻咽喉科領域の疾患について理解を深める。 3. 口腔硬組織（歯牙）軟組織の解剖の基礎知識を知り、口腔領域の疾患を知る。 <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 眼疾患系（4時間） <ol style="list-style-type: none"> 1) 眼球及び付属器の解剖 2) 前眼部の疾患と治療 3) 白内障、緑内障、糖尿病網膜症等 2. 耳鼻咽喉疾患系（6時間） <ol style="list-style-type: none"> 1) 鼻の解剖と鼻副鼻腔疾患 2) 聴覚器の解剖と耳疾患 3) 咽頭・喉頭の解剖と疾患 3. 歯・口腔疾患系（4時間） <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎知識の習得 2) 各疾患の習得 <p>【使用テキスト】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（13）眼（医学書院） 2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（14）耳鼻咽喉（医学書院） 3. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（15）歯・口腔（医学書院） <p>【評価方法】</p> <p>学科試験：学習内容 1. 2. 3について同時に試験を行い1科目評価とする。</p>						

授業科目	微生物学	講師名	花輪 智子 米澤 英雄	所属	医学部
開講時期	1年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>【学習の目的と主題】</p> <p>病原微生物について、その病原性・検査・治療・予防を中心に学び、実務において的確に対処できるための基盤となる知識を習得する。</p> <p>【学習内容】</p> <p>(1) 微生物学総論（感染症学の基礎と病原微生物の分類）</p> <p>(2) 滅菌と消毒（滅菌法および消毒剤の種類）</p> <p>(3) 化学療法（化学療法の基礎、抗菌薬）</p> <p>(3) 免疫学（免疫学の基礎、感染免疫、免疫と疾病）</p> <p>(4) 細菌学総論（細菌の生理、増殖、遺伝）</p> <p>(5) 細菌学各論（グラム陽性および陰性球菌、グラム陽性および陰性桿菌、放線菌、らせん菌、抗酸菌、マイコプラズマ、スピロヘータ、リケッチア、クラミジア）</p> <p>(6) ウイルス学総論（ウイルスの性質、ウイルス感染症の特徴とその治療および予防）</p> <p>(7) ウイルス学各論およびプリオン病（DNA ウイルス、RNA ウイルス、プリオン）</p> <p>(8) 真菌学および原虫学（真菌および原虫の性質と感染症）</p> <p>【使用テキスト】</p> <p>系統看護学講座専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進（4）微生物学（医学書院）</p> <p>【評価方法】</p> <p>主として修了試験結果により評価するが、その他課題の提出状況および受講態度を加味して判定する。</p>					

授業科目	薬理学	講師名	櫻井裕之・木村 徹・ 福富俊之 堅田智久 田中弦 末弘淳一		所属	医学部
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間	
<p>【学習の目的と主題】</p> <p>生体における薬物の作用を理解するのが薬理学である。薬物は、基本的には健常時において不要な物質であり、病態時に生体を限りなく健常状態に回復させるために用いられる。薬物の多くは、自らが直接生体機能を変えるものと、体内の諸種活性物質の量や質（活性）を変化させて特異効果を示すものがある。従って、薬理学の理解には、生理機能の理解が前提となっており、必要に応じて関連基礎科目の復習をしつつ学習することが必要となる。</p> <p>また、臨床における薬物治療を理解するためには、各薬物の作用、副作用の理解のみでなく、各薬物がどのように吸収され、体内に分布し、代謝され、排泄されるのか、いわゆる薬物動態の理解も重要となる。</p> <p>講義においては、薬物作用の理論、各薬物の特徴（作用、副作用、体内動態）、作用機序、及び薬物の管理について理解することを目的とする。</p> <p>【学習内容】</p> <p>上記学習の目的を考慮し、特に看護学領域において重要となる以下の項目を講義で扱うが、時間的制約上、講義では重要事項の解説に焦点を絞る。従って、講義終了後、教科書等により周辺事項の理解を深める自己学習を望みたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理学の総論 2. 自律神経作用薬 3. 中枢神経作用薬 4. 心臓血管系作用薬 5. 解熱鎮痛薬、抗炎症薬 6. オータコイド 7. 呼吸器系作用薬 8. 消化器系作用薬 9. 泌尿・生殖器系作用薬 10. 血液、生物学的製剤 11. 化学療法剤 12. ホルモン、ビタミン 13. 薬物中毒、毒物と解毒薬 14. 消毒薬、皮膚用薬、診断用薬 <p>【使用テキスト】</p> <p>はじめる、つかえる看護のための薬理学 時政 孝行著 南山堂</p> <p>【評価方法】</p> <p>学科試験：筆記試験をもって、学習の目的を達成できたかを評価する。</p>						

授業科目	臨床栄養	講師名	加藤 チイ		所属	実践女子大学
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間	
<p>【学習の目的】 看護と臨床栄養の関わりを理解する。</p> <p>【学習の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各栄養素を多く含む食品の知識を習得する。 2. 病態と栄養、食事の関連について理解する。 3. 栄養成分別食事療法、形態や硬軟度別の食事について理解する。 <p>【内 容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事療法の基礎（食品学、治療食の種類、チーム医療と栄養） 2. 循環器疾患の食事療法 3. 消化器、消化管疾患の食事療法 4. 腎臓疾患の食事療法 5. 栄養代謝性疾患の食事療法（糖尿病、肥満など） 6. 血液疾患、周手術期の栄養・食事療法 7. ライフステージ別食事療法（小児、妊産婦、高齢者） 8. 試験 <p>【使用テキスト】 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法（医学書院） 糖尿病食事療法のための食品交換表（日本糖尿病協会・文光堂）</p> <p>【評価方法】 学科試験：筆記テスト</p>						

授業科目	保健医療論	講師名	岡島 康友		所属	医学部 看護専門学校長
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	15時間	

【学習の目的】

人々の健康の維持と傷病の診断・治療のために必要な保健・医療・福祉の基本的事項とそれらの連携という今日的課題について、その現状・問題点・背景などを理解する。

【学習内容】

1. 医学・看護学のおゆみ
2. 健康と疾病の成り立ち
3. 医学・医療と看護
4. チーム医療と看護
5. 医療供給のしくみ
6. 現代医療の諸問題
7. これからの医療

【使用テキスト】

新体系看護学 健康支援と社会保障制度① 現代医療論（メヂカルフレンド社）

【評価方法】

学科試験（筆記テスト）

授業科目	健康教育学	講師名	岡山 睦美			
開講時期	2年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間	

【学習の目的】

人々の健康に対してセルフケア能力を高めるための教育的役割を理解し、実践する技術を獲得する。具体的には、病院や診療所だけでなく、施設や幼稚園・保育園、小中学校などで個人あるいは集団を対象とした健康教育を行うための、基本的な知識・技能を理解し、身につけることを目指す。

【学習内容】

- ①健康教育の目標を理解する：プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション
- ②健康教育の方法を理解する：
 - 個人を対象としたコミュニケーションの技法
(言葉を用いたコミュニケーション、言葉を用いないコミュニケーション)
 - 集団を対象としたプレゼンテーションの技法
- ③健康教育の対象を理解する：発達課題ごとの健康教育の方法
 - 育つ過程における健康教育：乳幼児期から青年期にかけての発達課題と健康教育
 - 老いる過程における健康教育：高齢期における発達課題と健康教育
- ④健康行動理論について理解する：
 - ストレスとコーピング、動機づけと自己効力感、健康信念モデル、
 - トランスセオレティカルモデル
- ⑤健康教育の方法と媒体、評価について理解する：RE-AIM

【使用テキスト】

(教科書) 特に指定しない

(参考文献) 宮坂忠夫、吉田亨、川田千恵子『健康教育論 (最新保健学講座) 第2版』
メヂカルフレンド社、2013年

その他、書籍だけでなく映画やホームページなど参考文献を適宜指定するので参考にすること。

特に、基礎分野【人間発達論】【人間関係論】や専門分野Ⅱ【小児看護学】【成人看護学】

【母性看護学】【老年看護学】などの科目と関連づけて学習することが望ましいので、教科書や資料等を活用するとよい。

【評価方法】

定期試験、講義内での小レポートおよび発表等を総合的に評価する。具体的な評価方法については講義内で説明するのでよく聞くこと。

授業科目	公衆衛生学	講師名	角田透・谷口善仁 苅田香苗・木崎節子 吉田正雄・櫻井拓也 菅田慎一		所属	医学部
開講時期	2年次 前期	単位数	1単位	時間数	15時間	
<p>【学習の目的と主題】 公衆衛生は、人を様々な社会集団で捉え、国民あるいは特定の集団を対象とする学問分野である。ここでは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の意義と重要性 2. わが国の健康水準の現況 3. 疾病予防や健康増進のための方策について学ぶ。 <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生と予防医学：健康の概念、健康増進、疾病予防 2. 地域保健・成人保健：わが国の死因の概要、生活習慣病の現状と対策 3. 精神保健：精神保健対策のあゆみ、精神障害者の医療、精神障害者の福祉 4. 感染症対策と食品保健：感染症の動向、感染症対策、食中毒、食品安全確保対策 5. 環境保健：環境と健康、公害、環境保全対策 6. 産業保健：主な職業病とその発生要因、労働衛生対策 7. 母子保健：母子保健の動向、母子保健対策の現状 8. 学校保健：学齢期の健康状況、学校における保健教育及び保健管理 9. 医の倫理；患者の人権と医の倫理、終末期医療 <p>【使用テキスト】 コンパクト公衆衛生学 松浦賢長他編（朝倉書店）</p> <p>【評価方法】 学科試験、授業への出席状況などを総合的に判断して評価する。</p>						

授業科目	社会福祉	講師名	井上 敦	所属	保健学部
開講時期	2年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間

【学習の目的と主題】

本講義では、社会福祉固有の概念や、現代の社会福祉に至るまでの歴史的変遷を学ぶことを基本的課題とするとともに、全ての対人援助職に共通して求められる「臨床的視点」について問い学ぶ。人が人に対してかかわる営為を生業とするソーシャルワーカーや看護師においては、単に社会福祉の概念の定義や、現代に至るまでの歴史の流れや、現在使われている制度内容について理解しておくことだけが求められるのではない。それと同等に（あるいは、それ以上に）目の前の人間にいかにかかわるかという人間理解についての基本的視点が問われてくる。したがって、本講義においては、社会福祉に関する概念、歴史、制度・政策、法律について学びを深めることはもちろんのこととして、それらに加えて対人援助を担うにあたっての自らの基本的視点についても問いを深めていってもらいたい。

【学習内容】

- ① 本講義のガイダンスと、「対人援助職」に共通の基本的視点を考える
- ② 福祉六法の概要とその成立過程を辿る
- ③ 「社会福祉基礎構造改革」と ICDH・ICF それぞれの障害観
- ④ ノーマライゼーションとリハビリテーション
——めざすべき誰もが住みやすい社会とは——
- ⑤ 「重度心身障害児の父」と呼ばれた糸賀一雄の生涯を辿る
——「この子らを世の光に」に込められた意味をめぐって——
- ⑥ 現代における社会福祉制度の援助体制——とくに生活保護制度に焦点を当てて①——
- ⑦ 現代における社会福祉制度の援助体制——とくに生活保護制度に焦点を当てて②——
- ⑧ 社会福祉論者によるニード論と、ニード把握の視点①
- ⑨ 社会福祉論者によるニード論と、ニード把握の視点②
- ⑩ 障害児・者に対する現代の福祉サービス——いま求められる、地域での援助実践——
- ⑪ 現代における社会福祉制度の援助体制——とくに障害者福祉制度に焦点を当てて——
- ⑫ 支援費制度の成立とその概要および課題
- ⑬ 支援費制度から障害者自立支援法へ
——障害者自立支援法から顕在化したさらなる課題——
- ⑭ 本講義のまとめと、いま一度対人援助に求められる視点を考える
- ⑮ テスト

【使用テキスト】

「新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉」 メジカルフレンド社

【評価方法】

試験の成績結果（80%）および出席状況・授業内の小レポート（20%）で成績評価をおこなう。

授業科目	関係法規	講師名	橋本 雄太郎	所属	総合政策部
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間

【学習の目的と主題】

医療現場で看護業務に携わる者として、必要不可欠な法律基礎知識を身に着けることを目的とする。

講義では、国家試験の出題基準を意識した法律基礎知識について学び、次いで危機管理としての役割を果たす法律学の立場から医療をめぐる諸問題について考える。

【学習内容】

- ① 看護師に必要な法律基礎知識
- ② 医療関係法規、医事法
- ③ 保健師助産師看護師法について
- ④ 法律衛生法規、薬務法規、環境衛生法規
- ⑤ 生命の発生と終焉をめぐる法律問題
- ⑥ 労働法規、まとめ

【使用テキスト】

- ・ 系統看護学講座専門基礎 健康支援と社会保障制度(4)看護関係法令 (医学書院)

【評価方法】

学科試験による

授業科目	リハビリテーション論	講師名	永堀 啓・水石 裕 児玉優太・廣瀬 道宣 佐久間大輝・松下泰輔 諸田真実		所属	杏林大学病院
開講時期	2年次 前期	単位数	1単位	時間数	15時間	
<p>【学習の目的】 リハビリテーションの概念と医学的リハビリテーションの基礎を学び、患者の障害とそれに伴う問題を理解する。</p> <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション概論 2. ポジショニング 3. 移動・移乗（補装具・福祉用具含） 4. 症例検討 5. 作業療法 6. ADL 7. 言語聴覚療法 8. 試験 <p>【使用テキスト】 講師の資料</p> <p>【評価方法】 学科試験（筆記テスト）</p>						